

資料紹介

## 峯源次郎旧蔵・大隈重信関係欧文文書

島 善 高 重 松 優\*

### 目 次

- 一 はじめに
- 二 峯源次郎と大隈重信
- 三 峯家欧文資料の特質
- 四 峯源次郎旧蔵・大隈重信関係欧文文書目録

#### 一 はじめに

早稲田大学には、大隈重信関係文書が数千点所蔵されており、近代日本史研究にとって実に興味深い資料群を形成している。『大隈侯八十五年史』（全3巻、大隈侯八十五年史編纂会、大正5年）の編纂にあたった中野禮四郎が

侯宛にきた手紙は明治初年以來薨去の時まで何千通、一つ残らず何でもかんでもキチンと収蔵してあつたから、八十五年史編纂の際出して貰うと大きな葛籠一杯に入りきれず、猶外に葛籠に盛つて出されたのには喜びもしたが驚いた。其内にはどうしても良い極めて普通の新年の賀状暑中見舞状其他貴賤上下の区別なく、誰から来た手紙でもキチンと揃えて収蔵してあつた。

と述べているように（中野禮四郎「大隈重信の人となり」『大隈研究』1号、昭和27年）、大隈重信宛の書翰が外部に流れることなど滅多になかったのであろう。それ故に、ここに紹介する「峯源次郎旧蔵・大隈重信関係欧文文書」約160点は、これまで殆んど紹介されたこともない文書であって、非常に貴重な資料と言うことになる。

「峯源次郎旧蔵・大隈重信関係欧文文書」は、大隈重信の秘書的な役割をつとめていた峯源次郎が所蔵していたものであって、現在、佐賀県伊万里市情報広報課に「二里町峯家資料」の一部として保管されている。

「二里町峯家資料」は、伊万里市が市史を編纂するに当たり、幕末から昭和期にかけて二里町の開業医であった峯静軒（1792～1865）、その子の源次郎（1844～1931）、そして

---

\* 早稲田大学大学院社会科学研究科博士課程

孫の直次郎（1868～1938）の三代の資料を収集したもので、同市の市史編さん室によって目録も作成されている。ただし、この目録には欧文の読み違いや未解読のままの箇所が存在するので、今回、我々は「二里町峯家資料」を再調査し、大隈重信に関する欧文文書目録を改めて作成することにした。大方の御叱正を乞う次第である。

## 二 峯源次郎と大隈重信

峯源次郎（涓陽と号す）は弘化元（1844）年8月15日、現在の伊万里市中心部にほど近い佐賀藩領松浦郡中里村に生まれた。父静軒は、佐賀藩医花房氏の学僕をしたり、熊本藩の村井金山の下で古方医を学んだり、京都で洋方を学んだりした後、嘉永年間（1848～1853）以来、郷里で開業医を営んでいた。

峯源次郎は安政6（1859）年、谷口藍田の門に入って漢籍を修めた後、万延元（1860）年、佐賀藩の蘭医大庭雪齋の門人となり、医学校好生館に学んだ。一時、長崎に遊学して蘭学者三万季三郎に就いて蘭学を学び、文久3（1863）年、再び大庭の門に戻り、好生館にも復学した。その後、再度、長崎で蘭学を講じる一方で、英書にも親しんだ（峯源次郎の履歴は伊万里市市史編纂委員会編『伊万里市史本編』、昭和38年、鳥善高「私が出会った近代史史料」平成13年12月17日政策研究大学院大学における発表資料）。

峯は慶応元（1865）年江戸に留学し、明治3（1870）年、大学東校に入学した。そして翌4年にドイツ留学へ出発したが、往路のアメリカで奇禍に遭い帰国を強いられたという。明治5年、峯は北海道開拓使に招かれ、札幌病院（現在の市立札幌病院）の医学教官となった。峯が後年、大隈重信に随行して東北に赴いた時の記録「東北従遊私録」（二里町峯家資料エ-9、昭和6年に私家版が刊行）の明治14年9月1日条に

余以明治六七年之際。奉職於医学校及資生館。列于教員之末。地位雖微。居国家育英之一。而職無寸積。漫然辞去。思之今猶忸怩。

とあるので、ほどなくして東京に戻り、その後、参議兼大蔵卿大隈重信のもとに身を置くようになったようである。

大隈が峯の高名を聞き、峯を引き立てたというのが、詳しい事情と時期は明らかでない。「涓陽存稿」（二里町峯家資料ウ-2-3）の「相豆紀行続編」に

明治九年丙子之夏六月参議大隈公病。無幾而癒。適会炎暑賜暇。因举家奉大夫人時浴于函嶺熱海之温泉。傍以山水煙霞養性情。余辱拉伴。

とあって、大隈や夫人が一家を挙げて、8月16日から9月5日まで、箱根や熱海に出かけたが、峯もその一行に加わっている。

また明治10年の西南戦争に際して、大隈が京都に出張した折にも、峯は4月16日から5月16日まで随行した。「涓陽存稿」中の「京阪鶏肋日記」に

明治十年陸軍大将西郷隆盛以薩反。一月提大兵從薩入肥。圍熊本城侵暴四出。肥筑豊之前後為之騷然。天皇陛下親征進大燾於西京。大臣參議勞於函議。海陸軍將校與兵卒同勞於硝煙彈雨之間。數日而得破田原坂救熊城於重圍之中。賊勢從是逡巡。大勢既定。慶雲麗日再見太平之象。然陛下猶駐輦於西京。大臣以下拮据鞅掌于善後策。而四月大久保内務卿遙招大隈大蔵卿。大蔵卿以松方大輔應招。内務卿不聽。乃大隈氏自起。余忝隨行。

とある。

ところで、「二里町峯家資料」には明治8年から明治14年までの峯の辞令がなく、「官員録」にも彼の名は記載がない。この間の峯源次郎宛の葉書には、受取人住所を大隈邸とするものが少なくないので、大隈邸内に居住していたことも考えられる。

他方、峯は大蔵省関係の公文書の翻訳にも携わっていた。早稲田大学所蔵の「大隈文書」には、峯源次郎が翻訳した大蔵省公文書が少ない（早稲田大学大隈研究室編「大隈文書目録」、昭和27年）。外国人書翰でも、たとえば「大隈文書」C699の大隈重信宛サーゲル書翰（独逸より輸入すべき銀の代価支払方法に関する件）は、峯の翻訳文となっている。「二里町峯家資料」のサーゲル書翰（シ-36-3）は、その3日前に出されたものである。

また峯は、大隈の肝いりで始められた政府の物産調査に参加したこともあった。前掲「渭陽存稿」中の「西轅紀行」には

明治十二年一月、奉命省查東海山陽西海之物産。

とあって、1月17日から4月27日まで、神奈川を皮切りに九州まで出かけている。この「紀行」の2月21日条に

贈書於本省翻訳課長中島盛有及同僚宮田・鬼頭二氏。

とあるので、峯はどのような身分かは定かでないが、大蔵省の翻訳課に属していたとみて間違いなからう。大隈の秘書的な立場で、縦横の活動をしていたらしい。「二里町峯家資料」には、峯源次郎の筆跡と思われる大隈の英文書翰下書がいくつか残されているから、外国人との通信も、峯が担当していたようである。

さらに峯は、明治14年政変直前、明治天皇東北巡行に大隈が供奉した際にも、隨行を命じられている。その折の日記「東北從遊私録」の冒頭に

明治十四年辛巳七月車駕巡于東北。大隈參議供奉。余辱隨行。

とあり、7月30日から10月11日までが詳細に記録されている。ただし残念ながら、これには訪問先の景況が記されているのみで、政治的な事柄は、恐らく意識的に、全く省略されている。ただ文末10月11日条の次の一文は、印象的である。

十一日。晴。曉發、至杉戸天始明。壁越谷之際秋穫已成、黃雲半捲去而前日所見千里之綠雲、今安在哉。屈指僅兩閱月耳、造物陶甄之力、何其速哉。既過草加駅、則來迎者幢幢不斷。皆他人之朋友故旧也。迓余者独有芙蓉之孱顏耳。奚翅雍陶之米囊花而已

哉。

迎えに来ているのは、皆、他人の朋友知己ばかりであった。雍陶とは唐代の詩人、米囊花とは咲いたと思うと脆くも散り去るケシの花のことである。実際、この日の夜、大隈参議の解職が決定され、翌日、大隈は辞表を提出した。

峯は、おそらくは明治14年の政変を契機として、純然たる大蔵省の官吏に転身した。身分は大蔵省報告課九等属、月給45円。この時期を境に「二里町峯家資料」の欧文資料は、大蔵省の公文書が中心となる。資料を見る限りでは、峯の大蔵省での業務は翻訳と御雇い外国人の管掌であったらしい。

その後、峯は明治24年に大蔵省を辞して佐賀に帰り、ふたたび医業に携わることとなった。診療のかたわら細菌学、無蛋白ツベルクリンの研究に献身し、大正13年日本医師会会長から表彰を受け、88歳の長命を保って昭和6年9月に没した。

「大隈文書」に残る大隈重信宛峯源次郎書翰は、大隈への敬愛に満ち、いずれも宛名が「殿様」となっている。「殿様」とは、大隈邸の家従たちの大隈への尊称であった。

### 三 峯家欧文資料の特質

本稿で紹介する峯家欧文資料は、(一) 外国人商人、(二) 外交官、(三) 御雇い外国人関係の三種に大別できる。多くの書翰には翻訳文が付されているけれども、たとえば「二里町峯家資料」(シ-19-16-02)の郷純造書翰を、訳文は「ゴーイヌゴ(差出者の名前判読に苦しむ)」としている。郷純造は当時大蔵省国債局長であって、峯源次郎が知らないはずがない。従って、これらの訳文は、よほど年月が経過した時点で第三者の手によって作成されたか、あるいは源次郎の息子、直次郎が父の遺稿を整理した際に、翻訳を試みたものではないかと思われる。

#### (一) 外国人商人

明治14年まで主に大蔵卿の地位にあった大隈が、近代化設備の購入を通じて外国人商人たちと自然に近い関係を持ったことは、周知の通りである。明治最初期の大隈の功績として、横須賀製鉄所接収に要した50万ドルの借入、大阪造幣寮開設と鉄道の敷設があげられるが、「二里町峯家資料」にも関係する書翰が少なくない。まず、いずれの事業においても資金と人材を融通したオリエンタルバンクの銀行家たち、とくに横浜支店支配人ロバートソン、同副支配人ラッセル、本社の重役で鉄道建設・管理の責任者に転じたカーギル等の書翰が挙げられる。既に「大隈文書」中に公開されている資料と比較して、これまでの研究を大きく覆す書翰などは見受けられないが、オリエンタルバンク、外国商社、イギリス公使館が大隈と緊密に連絡を取りあいながら、事業を進めていく様子が窺える。

オリエンタルバンクの他には、横浜の有力な商人だったハドソン、ウォルシュ、ワトソ

ンなどの資料がある。大隈は彼らから物品を購入するのみならず、国内外の市場と相場の情報、産業振興策への助言などの新知識を盛んに吸収していた。大隈がこのような外国人の意見をどの程度採用し、大隈独自の財政政策を立案、修正したのか、未だ十分な調査が行なわれているとはいえ、今後の研究が俟たれるところである。

また、人間関係の常として、大隈へ様々な贈り物がなされていることも興味深い。特に目立つものとしては、造幣寮に機械を納入したオールトから双眼鏡（シ-19-9-5）、吉田新田問題解決の謝礼としてウォルシュからテーブルセット（シ-19-21-13）、洋銀相場介入を依頼されたワトソンからは「ヴィッグ」というセッター犬が贈られている（シ-19-1-4他）。大隈はヴィッグの訓練を自ら楽しんだだけでなく、ヴィッグが理解する命令はないものかを問い合わせ、血統書の送付と繁殖の手配まで依頼しているから、よほど気に入っていたらしい。

政策形成への外国人参加の一例は、「二里町峯家資料」シ-19-15-06の大隈宛ロバートソン書翰に見出すことができる。

ここに、10月5日の英国郵便船にて日本を離れることをお伝えいたします。私の片方の目に問題が起き、医師からはロンドンへ直行し専門家の診断を受けるよう勧められました。片目はほぼ見えなくなっていますが、一時的なことであるよう願っています。

ロンドンでの私の住所を同封します。もし貴兄がヨーロッパにいらっしゃることがあれば、どこに私がいるかわかりますし、私が喜んでお目にかかるであろうことは、いうまでもないでしょう。実際にどこに住むかはまだわかりませんが、このロンドンの住所から必ずわかるようになっていきます。

また、ジャパングゼットから刊行された“The Currency of Japan”もお送りします。同社の編集長から送ってきたのですが、私は既に一部持っていました。まだ読み終わっていませんから、その長所について今お話することはできません。ただ、通貨問題についてガゼットの編集長は、少なくとも時折は簡明な常識を示しており、また他の新聞にくらべて同問題に着目していたことは確かです。

近年、彼は日本銀行について二、三の記事を掲載しており、貴兄にとっても興味深い内容であるように思いました。もしご覧になっていないようなら、お送りしましょう。本にその記事が含まれていないことは残念です。同書には貴兄がしばしば言及され、また貴兄の政策は高く評価されています。編集長は私が貴兄と伊藤氏に提案した計画について、部分的に情報を得ていたようです。

計画が実行にうつされなかったのは、誠に遺憾であるといわざるをえません。これからも貴兄には、それを忘れずにいていただきたく思います。私の計画を実現する人こそ、この国を担う人となるでしょう。これについては、まったく考えるまでもない

のです。私には分かっているのです。あたかも、昼が終われば夜が来るのが当然であるかのように。民衆にとって正義の政策をおこなう政治家に過ちはあり得ません。日本の現在の通貨制度は、民衆にとり正しいものではなく、それを続けようという輩は民衆の友とはいえません。かの者たちは、彼ら自身には失望に終わるほかない政策を進めており、一方この国にとっては、さらに不幸を呼ぶことになるでしょう。(下線原文)

この書翰には日付や差出人名が付されていないが、調査の結果、「大隈文書」C660の大隈宛ロバートソン和文書翰(明治15年9月25日付)の原文であることがわかった。おそらく筆跡からして、峯源次郎が作成して大隈に提出した翻訳文が「大隈文書」C660であり、手元にとどめた原文の写が「二里町峯家資料」シ-19-15-06なのであろう。原本の所在は不明である。また、大隈に贈呈されたという“The Currency of Japan”も、早稲田大学中央図書館に所蔵が確認できた(請求記号TF1964)。ロバートソンには、文字を極端に傾かせ、“i”の点を非常に高い位置に打つ特徴的な書き癖がある。早稲田大学が持つ三冊の“The Currency of Japan”のうち、一冊の扉にはロバートソンの筆跡で“Bona fide redemption improves value—fictitious redemption increases depreciation.”(真正なる兌換は価値を高め、まやかしの兌換は下落を呼ぶ)と書き込まれている。

今回原文が発見されたことで、あらためてこの書翰の重要性を問うことができる。すなわちロバートソンの「計画」とは、英国全権公使ハリー・パークスが大隈に財政再建上の提案をしたという『公爵松方正義伝』(全2巻、徳富猪一郎編述、昭和10年)の記述に相当するのではなからうか。パークスは、5000万円の外債を元手に一大銀行を設立して紙幣消却を進めることを提議し、その責任者としてロバートソンを推したというのである。『大隈財政の研究』(中村尚美、昭和43年)は、パークス案の起草者が実際にはロバートソンだったと思われること、明治14年7月の「公債ヲ新募シ及ヒ銀行ヲ設立セン事ヲ請フノ議」をはじめとする大隈の財政改革案の多くが、パークスとロバートソンの提議を叩き台としたであろうこと、イギリスの影響を感じとった松方正義が強硬な反対論を唱え、明治14年政変の伏線となったことなどを示唆している。

本資料中における日本銀行への言及、また早稲田大学収蔵の“The Currency of Japan”への書き込みから、パークスの銀行設立提議が事実存在した可能性が高まった。また、「誰ニテモ拙者カ建議ヲ実施スル人ハ家国ノ舟楫ニ御座候」(舟楫とは舟の櫂、転じて天子を補佐する臣下をいう)といった峯源次郎の典雅な訳文は、ロバートソンの意図を推し量るにおいて、少なくとも今日では読解上の障害となってしまっている。しかし、“The man who puts my scheme in force will carry the country with” (私の計画を実現する人こそ、この国を担う人となるでしょう)という原文から、ロバートソンの自負と、大隈の復権には自分の計画こそが要となるだろうという確信が読みとれるのである。

## (二) 外交官

外交関係欧文資料は、食事の招待など儀礼的な書翰が中心である。大隈が外務大臣となったのは明治21年であるから、当然ながらこの時期の資料は、「二里町峯家資料」中には存在しない。アーネスト・サトウが、自分の「師匠」として小野義種（小野梓の従兄弟）を紹介し、その就職を依頼した大隈宛書翰（シ-19-12-1）、明治14年の政変直後に香港への外遊を誘われた大隈が、それを謝絶した香港総督宛の書翰下書（シ-19-1-3）などは、実に興味深い。

## (三) 御雇い外国人関係

御雇い外国人に関係する資料もまた、面会の依頼や礼状など日常の通信物が多い。しかし、それらの書翰中にも建言めいた文章が少なくなく、決して軽視することはできない。たとえば、朝鮮との不平等條約締結に反対する大隈宛ウィリアムズ書翰（シ-19-5）、紙幣発行に関する三野村利助宛ワトソン書翰（シ-43）、偏った輸出奨励策に批判的な論文を紹介する大隈宛フォン・シーボルト書翰（シ-21-11）などである。

また、峯源次郎が各種の英文文書を翻訳するにあたって、英文法や西欧の人物、故事についての質問をしばしば発し、それに対するフォン・シーボルト、ハウス等の回答も「二里町峯家資料」には目立っている。たとえば、峯は“for good or evil”という表現（シ-21-25-15）、“Graecosi ne consulito（ギリシャ人には相談するな）”というラテン語（シ-21-25-17）、アルキメデスと王冠の故事（シ-19-11-1）、軍隊における「名誉除隊」の意味（シ-21-25-22）などの翻訳に、彼等の助力を仰がざるを得なかった。いずれも、今日からすればさほど難しくもない質問であるが、それ故に当時の翻訳家の苦勞が偲ばれる。

さらに「渡辺氏宛 B. H. Chamberlain 書翰」（シ-19-3）は、明治20年においてさえ西欧の知識を得るのに困難が多かったことを伺わせるに十分である。その書翰の抄訳は以下の通り。

渡辺様。ご質問のマドックス（訳注・大英博物館の収集掛）とパリス（13世紀イングランドの歴史家）については『アップルトン人物百科（Appleton's Cyclopoedia of Biography）』に記事を発見しました。おそらく大蔵省がこの事典あるいは同等のものを所蔵しているでしょう。そうでなければ、私の蔵書をお貸しいたします。他のご質問については、残念ながら、ここ日本では答える手だてがありません。私は、横浜の弁護士で学識を持って知られるリッチフィールド氏に問い合わせをし、さらに氏が英国領事法廷にまで照会の労をとってくださいましたが、残念な結果となりました。ここにいる誰もが、必要な参考図書を持ち合わせていないようです。B. H. チェンバレン 拝。

チェンバレンは帝大教師であり、受取人の渡辺とは、当時帝大総長であった渡辺洪基であろう。峯と渡辺洪基は大学東校の同窓で、後年も親交を持っていたことが峯の日記からわかる。書翰中に見られる通り、『アップルトン人物百科』所蔵の有無について大蔵省へ問

い合わせがあり、峯がその担当になったのだろう。

#### 四 峯源次郎旧蔵・大隈重信関係欧文文書目録

##### 凡例

- 一、「二里町峯家資料目録」(伊万里市史編さん室編)中の「シ-19」から「シ-46」までの欧文資料を調査した。この他にも和文の大蔵省公文書などがあるが、ここでは取り上げなかった。
- 一、資料は書翰が中心であるが、政府公文書などの書類は「」内に資料名・内容を記すことで表記を区別した。
- 一、ごく一部に混在する峯源次郎個人に関する和文資料は、「峯源次郎関係欧文資料」として、内容の注記はしていない。
- 一、日本人の差出人・宛名は日本語表記、外国人はアルファベットとした。原文における敬称、役職名などは、一部を除き採用していない。
- 一、難読の人名、資料内容には「?」と注記した。
- 一、筆跡・役職から人物がある程度推定できる場合、()内に記した。
- 一、資料の作成者名、差出人署名、宛先がない場合は(記載無)、Sirなどの敬称や役職から個人が特定できない場合は(人物不祥)、解読が出来なかった場合は(判読不能)とした。
- 一、資料解読に当たっては、『大隈文書』、『大隈財政の研究』、『来日西洋人名事典』、『資料御雇外国人』、『明治初期の在留外人人名録』などを参考にした。

番号	差出人	受取人	日付	内容	備考	峯家目録番号
1	Batchelder, J. M.	大隈重信	1877.06.11	輸送船“China”ほか二隻の売込	Batchelderは横浜の外商、大隈文書に書翰多数	シ-19-01-01
2	Mounsey, A. H.	大隈重信	1878.04.27	夕食招待状	Mounseyは英国公使館書記官、著作に「薩摩治乱記」	シ-19-01-02
3	大隈重信	Pope Hennessy, Sir J.	1882.01.13	イギリス香港総督に同地への招待を謝絶	Pope Hennessyはイギリス香港総督、明治12年に日本を訪問し大隈と北海道周遊をした	シ-19-01-03
4	大隈重信	Watson, E. B.	1882.01.28	獵犬受領の礼状下書	Watsonは横浜の外商、書翰47・62と関係か	シ-19-01-04
5	von Siebold, H.	峯源次郎	1887.11.17	書類受領の謝礼、頼まれたラテン語文法書を探索中	von Sieboldは大シーボルトの次男、ハンガリー・オーストリア公使館書記官、大蔵省顧問	シ-19-02-01
6	Walter, John	松方正義	1882.11.27	米の輸送について連絡	Walterは横浜の香港上海銀行支配人	シ-19-02-02
7	Baelz, E.	峯源次郎	1871.02.18	明日以降にゴダイ(友厚?)氏を診察可能と連絡	Baelzは医師で東大教授、【ベルツの日記】が著名	シ-19-02-03
8	Chamberlain, B. H.	渡辺(洪基?)	1887.11.14	質問のMadox, Parisという人物について回答	Chamberlainは海軍兵学校長兼教師、のち帝大教授、日本研究の著書多数	シ-19-03



9	Williams, G. B.	大隈重信	1875.09.22	別紙(所在不明)にジン製造法を送付	Williamsは元アメリカ合衆国ワシントン州租税官、1871から76年まで大蔵省顧問	シ-19-04-01
10	Parkes, Harry	大隈重信	1882.07.02	火曜日に面会可能と連絡	Parkesは1865から83年まで英国全権公使	シ-19-04-02
11	Williams, G. B.	大隈重信	1876.04.19	朝鮮との不平等条約締結反対の意見書		シ-19-05
12	Stevens, D. W.	von Siebold	1871-75?	米国政府報告書を到着次第送付との連絡	Stevensは米公使館書記官、のち日本政府外交顧問として条約改正交渉などに尽力	シ-19-06
13	Robertson, John	大隈重信	1872.10.25	鉄道開通の祝い状	Robertsonは英国東洋銀行横浜支店支配人	シ-19-07
14	Hill, G. W.	大隈重信	1875.10.19	延滞館へ招待に応じると返答	Hillは司法省顧問	シ-19-08-01
15	Bingham, J. M.	大隈重信	?02.02頃	夕食招待状	Binghamは米国公使	シ-19-08-02
16	Smith, M.	大隈重信	?12.18	明朝の面会を依頼	Smithについては詳細不明	シ-19-09-01
17	(判読不能)	大隈重信	?04.28	Kempermann氏をとまない明日の面会を依頼	Kempermannはドイツ公使館書記官か	シ-19-09-02
18	Parkes?, Harry	大隈重信	?11.13	猟銃と弾丸の贈り物、英国公使館に忘れた銃は明日届けさせること		シ-19-09-03
19	Satow, Ernest	大隈重信	1871.02.22	造幣寮開設について明日パークスと面会を依頼、カーギルの書翰下書がされたか問合せ	Satowは英公使館書記官で回想録が著名、カーギルは書翰49参照	シ-19-09-04
20	Alt, W. J.	大隈重信	1869.07.26	大阪造幣寮に関する契約締結についての礼状	Altは長崎を中心に活動したイギリス人商人	シ-19-09-05
21	大隈秀麿	Page	1886.05.12	Page氏宛峯氏の紹介状	大隈秀麿は大隈重信の養子、Pageは不明	シ-19-10-01
22	Russell?, J.	寺島宗則	1869.04.22	造幣寮に派遣するイギリス人の人選、費用について	署名難読、Russellは東洋銀行横浜支店次長、宛先は神奈川県知事名義	シ-19-10-02
23	House, E. H.	峯源次郎	1879.02.10	質問のアルキメデスの故事について返答	Houseは親日派英字新聞Tokio Timesの発行者、大隈と特に懇意であったといわれる	シ-19-11-01
24	Baelz, E.	峯源次郎	(記載無)	昨日帰京につき「患者」の様子を伺う手紙		シ-19-11-02
25	Blarke?, J. R.	札幌の病院	(記載無)	薬について抗議と「親切な医師」への謝辞	峯源次郎は明治6、7年に札幌病院に勤務	シ-19-11-03
26	House, E. H.	大隈重信	1875.06.14	金曜に横浜で開催される演劇への招待状		シ-19-12-01
27	Satow, Ernest	大隈重信	1872.11.11	「師匠」鳥取県吏小野義種の政府就職を依頼	原本に訳文が付随	シ-19-12-02
28	Satow, Ernest	大隈重信	?01.30	借款についてパークスと東洋銀行のカーギルに明日横浜で面会を依頼		シ-19-12-03
29	オーストリア公使、ベルギー公使	大隈重信	1881	1881.02.15 両国王族結婚記念晩餐会へ招待		シ-19-13-01
30				(資料欠)		シ-19-13-02
31	von Siebold	盧高朗	1882.03.16	煙草規制についてのロシア語文献の翻訳者探しについて連絡	盧高朗は大蔵省報告課長で峯の上司	シ-19-13-03
32	(記載無)	(記載無)	(記載無)	米の輸送について運賃を支払ってよいか確認	大蔵省用箋	シ-19-13-04
33	Robertson, John	吉田(清成)	1874.05.21	銀円貨について大隈の意見を聞くべしと助言		シ-19-14-01
34	Hudson, John	大隈重信	1873.12.30	外商より再度の来日通知と自社恩顧の礼状	Hudsonは横浜でハドソン・マルコム商会を経営	シ-19-14-02
35	Japan Daily Herald	von Siebold, H.	1880.10.02	1875-76年の概算を含む「書類」は当社では売切と通知		シ-19-15-01
36	(記載無)	(記載無)	(記載無)	日本政府側の書翰下書か、米		シ-19-15-02

37	Gubbins, John	盧高朗	(記載無)	の輸送云々 英国 公使館より国立銀行の数を照会	1875年の英国公使館通訳見習生にJ. G. Gubbinsとある	シー19-15-03
38	(記載無)	Gowland, W.	1888?	帰国する造幣局顧問へ謝辞	Gowlandは大阪造幣寮教師、古墳研究者としても著名	シー19-15-04
39	Balchin, R.	山尾(庸三)	?09.20	在英の英人教師から日本人留学生の教師として指定されるよう周旋を依頼		シー19-15-05
40	(Robertson, John)	(大隈重信)	(1882.09.25)	眼病により婦英の通知、貨幣制度改革の意見、本を進呈	本資料は峯源次郎による写と思われ、大隈文書C660はその訳文、大隈に贈られた本とは1882年発行“the Currency of Japan”で早大中央図書館に現存(請求記号TF1964)	シー19-15-06
41	Mitford, A. B.	大隈重信	1873.07.11	来日通知と面会を求める手紙・訳文付		シー19-15-07
42	Robertson, John	(記載無)	(記載無)	面会の依頼		シー19-15-08
43	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	タイムズ紙掲載の貨幣制度をめぐる記事の試訳	原本の英文の前段が欠けている	シー19-15-09
44	Bramsen, William	大蔵省翻訳課	1877.07.23	度量衡一覧表送付の通知	Bramsenはデンマーク人、大日本汽船会社勤務、日本文化研究家	シー19-16-01
45	郷純造	(記載無)	1879.07.30	グラント將軍歓迎会を病気にて不参加の通知	郷順造は当時大蔵省国債局長	シー19-16-02
46	de Ruyter, Miss & Benkema, Mrs.	大隈重信	1874.11.30	贈物の添状	オランダ人と思われるが詳細不明	シー19-16-03
47	Rohde, R. T.	Watson, E. B.	1882.01.24	犬の慣らし方について	Rohdeは東洋銀行行員、書翰4と関係か	シー19-16-04
48	オーストリア公使	大隈重信	1881.02	奥皇族の結婚記念夜会への招待		シー19-16-05
49	Cargill, W. W.	大隈重信	1871.05.18	パークス夫妻ほかと舟遊びの招待	Cargillは当初東洋銀行行員、のち鉄道・電信の差配人となる	シー19-16-06
50	Kennedy?, J. V.	大隈重信	1881.03.25	ジャンバガゼットより大隈の財政論掲載許可を請う	1881年“Japan Directory”におけるガゼット社に該当人物なし	シー19-17-01
51	Hudson, Malcolm & Co.	大隈重信	1874.09.21	メキシコドル・棒銀について市場情報を伝達		シー19-17-02
52	Hudson, Malcolm & Co.	大蔵卿	1874.08.22	ロンドン事務所から謄写版書翰、同地米市場についての報告書を送付		シー19-17-03
53	(記載無)	タイムズ紙編集者	(記載無)	投書	書翰43と関係か	シー19-17-04
54	(判読不能)	(人物不詳)	1884.02.19	御雇外人某より人力車事故に遭遇の通知	盧高朗ほか大蔵省報告課の日本人が言及される	シー19-18-01
55	Walsh, Thomas	大隈重信	1886.10.28	八王子までの鉄道敷設決定を喜び甲府までの延長を提案	Walshはアメリカ人商人、神戸製紙所を創設	シー19-18-02
56	Cargill, W. W.	大隈重信	1871.06.27	ナガイ氏からの書翰四通を転送、レイ氏と話がまとまると通知	ナガイについては不明、レイは鉄道敷設について当初日本政府と契約を結び、のち排除されたイギリス商人	シー19-18-03
57	Williams, G. B.	大隈重信	1876.08.29	スイスの保養先で会った英国公使館関係者との会話を通知、パークスの引退、条約改正、貿易、ヨーロッパの日本観、朝鮮問題、ウインロー事件ほか		シー19-18-04
58	Ayrton, W. E.	大隈重信	1873?.07.04	吉田清成から紹介状持参、面会を請う	Ayrtonは工部大学校教師	シー19-18-05
59	Korshelt, Oscar	(記載無)	1879.02.12	日本酒に関する研究報告、ドイツ語と思われる	Korsheltは東大医学部、農商務省調査所に勤務、日本酒・塩業・陶業の研究に従事	シー19-18-06
60	Howell, W. G.	吉田清成	1874.05.26	政府財政報告書の新聞発表	HowellはJapan Mail発行者	シー19-19-01

				について		
61	Ayrton, W. E.	大隈重信	1873?.07.11	先日の手紙に返事がなく、再度面会を請う	書翰 58 に対して返事がなかったと思われる	シ-19-19-02
62	Watson, E. B.	大隈重信	1882.03.27	猟犬と血統書を進呈	書翰 4 に関係か、峯家資料シ-15 に国債局と Watson の約定書あり	シ-19-19-03
63	Walters, T.	井上 (馨)	1869.08.18	一円金貨はか鑄造決定につき新しい機械購入を勧める	Walters はイギリス人建築家、大阪造幣寮・銀座煉瓦街などを建築	シ-19-19-04
64	Denver?, Horace D.	大隈重信	1871.06.10	内談したく面会を請う	サンフランシスコ市移民委員会用箋(ただし抹消済)	シ-19-19-05
65	Russell?, J.	大隈重信	1873.05.15	依頼通り第二国立銀行で金(きん)を引き渡すと通知		シ-19-19-06
66	Dickens, Fred M?	大隈重信	1878.12.28	帰国の挨拶、駐英日本公使へ紹介状を依頼	Dickens は元 Japan Mail 社主・主筆	シ-19-19-07
67	Mayet, P	大蔵省	1882.12.29	引越しに関する事務通知、現在ナウマン氏宅に仮寓	Mayet はドイツ人政治経済学者、東大教師、大蔵省ほかの顧問	シ-19-20
68	アルゼンチン領事館	大蔵脚秘書官	1882.09.29	グアテマラでの博覧会出品のため収入印紙の見本提供を依頼する	大蔵卿はこのとき松方正義	シ-19-21-01
69	Cargill, W. W.	大隈重信	1873.04.19	鉄道管理につき向上策があるため面会を希望		シ-19-21-02
70	Mangum?, Mr.	大隈重信	1874.05.02	昼食の招待	署名雜誌	シ-19-21-03
71	House, E. H.	土山(盛有)	1879.02.07	訳文受領と発表まで時間がかかる旨通知	土山盛有は当時大蔵省少書記官	シ-19-21-04
72	大隈重信夫妻	Bingham, J. M.	(日付無)	夕食の招待		シ-19-21-05
73	Pitman, John	(宛先無)	1882.07.10	英領インド高官の著書を参考のため送付		シ-19-21-06
74	(判読不能)	(宛先無)	1882.08.19	昨日横浜で某(判読不能)と会う、その内容を伝えるため面会を乞う		シ-19-21-07
75	(判読不能)	(宛先無)	1882.08.20	横浜の某へ面会不能の旨連絡を依頼	前項書翰 74 と同じ筆跡、差出人は小石川在住か	シ-19-21-08
76	Pitman, John	吉原(重俊)	1882.07.06	アヘンに関する英香港総督宛機密文書を同封、司法省御雇仏人 Galy が離日して商売をはじめらつき面会を依頼	吉原重俊は当時大蔵少輔	シ-19-21-09
77	House, E. H.	大隈重信	1883.01.17	Pitman からの手紙を転送、病気に付欠礼の詫び		シ-19-21-10
78	Robertson, John	大隈重信	1875.09.13	葡萄酒進呈の添え状		シ-19-21-11
79	Pitman, John	(記載無)	1882.12.25	中国の情勢、ヤング氏と面談、三菱の損について助力を申し出	上海より発送、ヤングはグラント將軍日本滞任の著者か	シ-19-21-12
80	Walsh, Thomas	大隈重信	1878.12.30	吉田新田事件はか滞日中の件々につき深謝、テーブルセットを進呈		シ-19-21-13
81	Dunn, J. G.	大隈重信	1879.06.09	インドにおける鉄道と商業に関する新聞記事を参考のため送付	Dunn は横浜山手 244 番居住	シ-19-22
82	Brooke, Mr. & Mrs.	大隈重信夫妻	1881.10.03	娘の結婚を通知、朝食の招待	Brooke は横浜山手 70 番居住	シ-19-23-01
83				「峯源次郎関係文資料」		シ-19-23-02
84	Pinn, J. F.	von Siebold, H.	1880.10.02	求められたバックナンバー(予算関係の記事が掲載)が売切れと通知	Pinn は Japan Herald のマネジャー	シ-19-24
85			1884.10.16	「峯源次郎関係文資料」	シ-20-01 からシ-20-15 までは和文資料	シ-20
86	Miller, H?. M.	(記載無)	1873.05.16	アメリカより毛織物製造会社設立に関する建言書	あるいは Miller 宛の手紙と考えられる	シ-21-01
87				「峯源次郎関係文資料」		シ-21-02
88	Sherman, John	(記載無)	1878.12.02	「米国財務長官報告」	印刷の資料、Sherman はアメリカ財務長官	シ-21-03
89	von Siebold, H.	峯源次郎	1887.02.22	手紙受取の通知、問合せにつき返答、近日面会したいと連絡	葉書、牛込区新小川町十八番地宛、峯は最近引越したとのこと	シ-21-04
90	von Siebold, H.	峯源次郎	1886.08.21	早朝在宅につき来訪を請う	葉書、飯田町大隈公御邸内宛	シ-21-05
91	von Siebold, H.	峯源次郎	1886.08.31	面会でできなかったことへの詫状	葉書、飯田町荅丁目荅番地宛	シ-21-06
92				「峯源次郎関係文資料」		シ-21-07

93	(記載無)	(記載無)	「諸氏英文名刺」(大隈重信・峯源次郎・平田章・藤井三郎・榎本武揚・浅野長勲・上野景範・在マニラ領事館・高橋新吉・花房義賢・在シンガポール公使館・森有礼・在ドイツ領事館・寺見機一・在リヨン領事館・アジママサタケ・Kクマサキ・川島忠之助)、古代ギリシャ人名一覧	外国人名集には“v.S.”の署名、ヘンリー・シーボルトか	シー21-08
94	(記載無)	大隈重信夫妻	(記載無)	英文封筒のみ	シー21-09
95	von Siebold, H.	(記載無)	(記載無)	ベルギーの鉄道について・手稿	シー21-10
96	von Siebold, H.	大隈重信	1879.10.08	大隈宛書簡と外国貿易について論文	シー21-11
97	(記載無)	(記載無)	(記載無)	「電信暗号」	シー21-12
98	von Siebold, H.	峯源次郎	1882.05.04?	体調不良と聞き見舞の手紙	大蔵省用箋 シー21-13
99	鐘ヶ江H?	Sloyan, R. J.	1874.12.25	離婚した日本人妻(?)より送金について感謝の手紙	Sloyanは佐賀で雇われたアメリカ人医師、英語文法に間違いが多い シー21-14
100	von Siebold, H.	(記載無)	1886.01.12	ヨーロッパの絵画事情についてのメモか	紙の裏写りが甚だしく難読 シー21-15
101	von Siebold, H.	(人物不詳)	(記載無)	横浜へ次回以降の同道を願う	シー21-16
102	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	日本語蔵書整理につき助力を依頼	シー21-17
103	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	体調不良につき欠勤の連絡	シー21-18
104	(記載無)	(記載無)	(記載無)	「ニューヨーク日本領事館書籍リスト」	シー21-19
105	(記載無)	(記載無)	(記載無)	「オーストラリア在住日本人住所」(日本公使館徳田某、秋田商会高本貞作)	シー21-20
106	(記載無)	(記載無)	(記載無)	「香港在住日本人住所メモ」(領事代理平部二郎、マチダ某)	シー21-21
107	(記載無)	(記載無)	(記載無)	「封筒数通、青木周蔵・大隈重信宛ほか」	シー21-22
108	Eastlake, F. W.; Mayers, W. F.	(記載無)	(記載無)	「1871年日清通商條約英文訳」	メイヤース・イーストレイク訳、 在日清国大使館による印刷 シー21-23
109			(記載無)	「峯源次郎宛英文封筒・シーボルト名刺ほか」	シー21-24
110	von Siebold, H.	峯源次郎	1882.06.14	多忙につき大蔵省へ出省不可、書類送付の通知	シー21-25-01
111	von Siebold, H.	峯源次郎	1886.02.19	自分の所在について晩には鹿鳴館にいたることが多いと通知	シー21-25-02
112	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	体調不良につき休養する旨通知	シー21-25-03
113	von Siebold, H.	(人物不詳)	(記載無)	Joseph氏が「大隈氏の招待に応じられない旨通知	シー21-25-04
114	von Siebold, H.	峯源次郎	? .11.22	贈物(ヨーロッパよりの舶来品)の添状	シー21-25-05
115	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	本日外務省にて多忙につき大蔵省へ行きかねると通知	シー21-25-06
116	von Siebold, H.	峯源次郎	1882.10.16	ウィーンに到着し松方正義等に面会と通知	ウィーンより発翰 シー21-25-07
117	von Siebold, H.	峯源次郎	1883.07.23	近日オーストリアより日本に戻ると通知	ウィーンより発翰 シー21-25-08
118	von Siebold, H.	峯源次郎	1882.04.27	熱海より今日帰京、明日は大蔵省に出省予定	シー21-25-09
119	von Siebold, H.	峯源次郎	1881.07.16	バード女史の近著(『日本奥地紀行』か)を送る、本身体調不良により欠勤	シー21-25-10
120	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	多忙につき出省できず、書類の送付を依頼	シー21-25-11
121	von Siebold, H.	峯源次郎	1885.11.27	英語文法問合せについて返答	シー21-25-12

122	von Siebold, H.	峯源次郎	1887.02.20	大隈夫人への“Bazar Paper”誌が姉より近日到着とのこと、英語文法について、仏公使が大隈邸を買ったとの噂は本当か		シ-21-25-13
123	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	大蔵省に置いてある蔵書引取について問合せ		シ-21-25-14
124	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	病氣回復につき明日大蔵省出勤予定	オーストリア・ハンガリー公館より発翰	シ-21-25-15
125	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	書類送付を依頼		シ-21-25-16
126	von Siebold, H.	峯源次郎	?12.13	英語文法問合せについて返答		シ-21-25-17
127	von Siebold, H.	峯源次郎	1886.09.22	松方から花瓶を受領、本件につき峯に謝辞		シ-21-25-18
128	von Siebold, H.	峯源次郎	(土曜日)	病氣から回復、来週から大蔵省へ出勤予定		シ-21-25-19
129	von Siebold, H.	(宛先不詳)	(記載無)	病氣から回復、明日より出勤の予定		シ-21-25-20
130	von Siebold, H.	峯源次郎	1886.12.31	見舞と多幸な新年を祈る旨		シ-21-25-21
131	von Siebold, H.	峯源次郎	?11.04	英文法につき返答、手紙に切手同封は不要		シ-21-25-22
132	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	贈物(「目黒の名物」こと箱)の添え状		シ-21-25-23
133	von Siebold, H.	峯源次郎	(記載無)	アラビアゴム(?, 医療に使われた)をわけてもらよう依頼	差出人署名はHoltにも見える	シ-21-25-24
134	von Siebold, H.	峯源次郎	?12.21	明日三時に三田小山の公館で面会可能と通知	大隈邸内峯氏あて封筒付	シ-21-25-25
135	三条実美、松方正義		1883.12.28	「中山道鉄道敷設公債発行条例(英文)」	印刷資料	シ-22
136	(記載無)	(記載無)	(記載無)	横浜貯蓄銀行設立意見書		シ-23
137	Howell, W. G.	吉田清成	1874.05.29	日本政府財政報告書受領、近日出版・批評予定	吉田より翻訳掛へ和訳の指令メモ付き	シ-24
138	(von Siebold, H.)	(記載無)	1879.07.23	ドイツ関税改正案につき報告	ベルリンより送付、H. von Sieboldか	シ-25
139			(日付無)	「外国人名刺、Antisell, Wilkins, Rohde, Dames, Le Gendre, Dickens, von Siebond, Netto他」		シ-26
140	英国領事	大隈重信	(記載無)	(封筒のみ)		シ-27
141	(記載無)	田中不二麿	(記載無)	(封筒のみ)	田中の役職は“Vice Monbudaijo (文部大丞) Minister”	シ-28
142	Pitman, John	大隈重信	1878.10.04	香港で日本貨幣を通貨とする働きかけがある旨通知	香港より発翰	シ-29
143	(記載無)	(記載無)	1868.09.17	「英国東洋銀行より50万ドル借用契約書の写」		シ-30
144	Pitman, John	大隈重信	1878.12.24	香港の政治経済状況の報告		シ-31
145	(人物不詳)	(記載無)	1873-74?	「ラッセル社・カルドウェル社間の業務通信」		シ-32
146	von Siebold, H.	大隈重信	1879.10.20	仏政府財政報告書の写を送付		シ-33
147	Watson, E. B.,	(記載無)	1883.08.30	「大蔵省国債局と外商の預金契約控」		シ-34
148	(記載無)	(記載無)	(日付無)	「横浜運河及び埋立についての覚書」		シ-35
149			(日付無)	「大隈宛書翰封筒、名刺(蜂須賀茂韶、安藤太郎、九鬼隆一、E. B. Watson, Munier)他」		シ-36-01
150	(記載無)	(記載無)	1877.04.13	「ロンドンの金属相場報告」		シ-36-02
151	Sagel, W.	(大隈重信)	1879.10.18	銀貨幣暴落の理由について	Sagelは横浜在住の商人、大隈文書に書翰多数	シ-36-03
152	Pitman, John	太政官	1877.02.24	日本海運促進について		シ-37

153	von Siebold, H.	大隈重信	1879.10.06	英国相互貨幣に関する報告	シ-38
154	三条実美、松方正義		1883.12.28	「金札交換令、英文」	シ-39
155	三条実美、松方正義		1883.12.28	「中山道鉄道敷設公債募集規約書、英文」	シ-40
156	von Siebold, H.	(記載無)	1877頃?	ドイツ語英語文書数種	シ-41
157	Friedrich Wilhelm III	(記載無)	1826.05.26	「国家財務簿記に関する詔書、独文」	シ-42
158	Watson, E. B.	三野村利助	1880.10.25	紙幣発行に関する意見書	シ-43
159	(署名無)	(記載無)	1854.09.14	「私立鉄道敷設に関する 奥国免状授付条例」	シ-44
160	(署名無)	大隈重信	(日付無)	「外国人より大蔵卿大隈 重信宛、封筒のみ」	シ-45
161	von Siebold, H.	峯源次郎	1881-86	英文書翰七通、病欠連絡・大隈邸売却一件ほか	シ-46